

BUNKA FASHION COLLEGE

SUMIRE KAI



文化服装学院 すみれ会(同窓会) 会報誌



NEWSLETTER OF SUMIRE-KAI

2021
NO 61

1973年12月 大沼理事長(右)と高田賢三氏。
二人が写る、一番古い記録写真より。

文化服装学院 すみれ会(同窓会) すみれ会報

CONTENTS

- 01 すみれ会会長あいさつ
- 02 すみれ会名誉会長インタビュー
- 04 お悔やみ 大沼 淳先生
- 06 お悔やみ 高田賢三さん
- 08 卒業生の活躍
 - コロナ禍でもポジティブに活動するブランド、アーティスト
 - 熊切秀典さんが、第38回毎日ファッション大賞を受賞
- 13 すみれ会の活動
- 14 文化服装学院の今
 - Online Show, SNS
 - SNSでの発信、オンラインでのショー公開
 - Contests, Collaborations
 - 国内外のコンテストで相次ぐ受賞、企業コラボレーションも
- 18 インフォメーション
 - 会計報告/会員手続きについて/すみれ会会員特典/
 - 文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ/
 - 文化服装学院 教員採用情報/古本基金のお知らせ

すみれ会会長あいさつ

Message

現状にくじけず探求を続けるスペシャリストこそ、 次のファッション業界の主役になるはずです

いくぶん夏の暑さも和らぎ、私が暮らす山形県も酷暑の名残は薄れ、爽やかな秋風が吹き抜ける心地よい季節を迎えました。ただ、世の中は変わらず新型コロナウイルス感染症の脅威が続いています。会員の皆さまは変わらずお元気にお過ごしでしょうか。

前回の会報では、コロナウイルス禍で一変したファッション業界のあり方、ファッションを学ぶ者としての姿勢を僭越ながらお話しさせていただきました。あれから1年がたちパンデミックは収束せず、業界の状況に好転の兆しが見られるかと問われると、安易に良くなっているとは言えません。それは、この業界に携わる皆さまが身をもって痛感していることかと思えます。

今から50年前、私が身を置く紡績業界は隆盛を極め、若者たちがこぞって就職を望む職種でした。月日は流れ、アパレルの業種の主役は、製造から小売へ、そしてデザイン、バイイング、マーケティング、インターネットビジネスなど、時代とともに移り変わってきました。求められる業種の変遷は、ユーザーニーズの変遷ともいえます。それでは、コロナウイルスが終息した将来、ファッション業界においてはどのような職種が主役になるのでしょうか。

私は、スペシャリスト=オタクこそ、これからのファッション業界に光明を与える業態・職種だと考えています。スペシャリストは業種や職種ではないとご指摘があるかと思えます。大切なことは、自身が携わる職種をどこまで探求できるか、です。服飾の歴史、洋服の作り(パターンや縫製)、ビジネストレンド、世情、どれかひとつ

でも熟知していることが、そのブランドもしくは人物にとって大きな武器になります。そして、確かな技術や知識に基づいた製品を作り続けることが、この状況下においてユーザーと真摯に向き合える手段のひとつとなります。

トレンドを追いかけるビジネスは終焉を迎えていると言っても過言ではありません。だからこそ私は今、それぞれが道を究めることに邁進できる好機だととらえています。それは、現在ファッション業界に身を置く人、志す人を問わず、すべからく言えることです。すみれ会会員の皆さまはご存じかと思われませんが、幸い文化服装学院は、ファッションのスペシャリストとなるための教育に長けた環境が用意されています。私は、この場所でファッションのイロハから新たな知識、共通の志を持つ仲間に出会いました。それは現在、手がけるビジネスの礎となっています。同じように厳しい時代に心折れず、学びを活かし情熱を注ぐ一人ひとりがこれからのファッションの世界を作り上げると信じています。



佐藤正樹 氏
すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役

すみれ会名誉会長インタビュー

Interview

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、緊急事態宣言発出からスタートしたと言っても過言ではありません。授業のオンライン化、文化祭や卒業制作発表会をはじめとする各種のイベントが中止ないしオンライン開催となり、服作りの基礎を育むことで世界に通用する人材育成を担ってきた文化服装学院のあり方を根本から問う日々でした。昨年の会報誌でも、文化服装学院の“今”を相原幸子学院長に伺いましたが、それから一年がたち、その後について、また2023年の文化学園創立100周年へ向けての意気込みをお話いただきました。

——昨年度は、オンライン授業や登校可能とする学生数を制限するなどして、感染対策を最優先とした授業体制が続きました。知識と技術を身につける専門学校として、この変化をどう考えていますか？

まさに手探りの一年でした。ひと口にオンライン授業といっても座学のみならず、服装造形、デザイン画、染色といった実技を伴う学びについても、どうすればクオリティを落とさずに学生の理解度を高め、地力につながられるかが課題でした。

そこで私たちは、学生がこうした授業体制をどう受け止めているのかという実態把握のため、オンライン授業を開始してから約半年後となる昨年10月、ウェブアンケート調査*を行いました。オンデマンド型の授業では、「とても満足」23.5%、「どちらかという満足」27.4%となり、約半数が満足しているという結果に。部分縫いなどの実技は繰り返して手元を見られることなどが満足度を上げたようです。またライブ配信型の講義でも、学生

一人ひとりが集中して聞くことができたことで提出物のクオリティが上がったという報告も受けています。反面、登校制限により、学園施設が自由に使えなかったことに対する不満は76.5%にも上ります。

私たちは、このウェブアンケート結果を公開しました。いいところも悪いところもすべて開示し、入学希望者には現状を納得してもらった上で、2021年度を迎えたいと思ったからです。うれしい誤算といえますか、入学者数は近年最高となる約1,700名となり、学院全体では3,800名ほどとなりました。留学生の入国が制限されている中での数字となりますので、コロナ禍においても、文化服装学院を選んでもらったことは、授業のあり方、またオンライン等での情報発信が功を奏したものと受けとめています。

——2020年度に実施した学科再編、新設コースの手応えについて教えてください。

まず、ファッション流通専門課程ファッション流通科2年次の進級コースとして新設された「ファッションプロモーションコース」は、今年度より本格的な学びがスタートしました。デジタルメディアを活用したプロモーション力の習得を実践的に行うことを目的としたカリキュラムで、実践的な学びの場として、学生メディア「prop(プロップ)」の運用も開始。学院生のリアルな視点によるオリジナルコンテンツが週2回(火曜、金曜)更新され、全国の高校生へ向けて文化服装学院の魅力を伝える新たなオウンドメディアとしてぜひ注目していただきたいです。

3年制のファッショングッズ基礎科を廃止し、2年制の

ウィズコロナの文化服装学院。 その取り組みと結果を100周年の先へとつなげるために

4科を新設したファッション工芸専門課程に関しては、本年度末に1期生が卒業を迎えます。3年次のファッショングッズ専攻科へ進級する学生、就職・起業して社会へと旅立つ学生と分かれてきますが、こちらの学科再編の成果については、今しばらく見守りたいと思います。

——コロナ禍において、文化服装学院がさらなる飛躍を遂げるためには、何を心がけ、チャレンジしていくべきだとお考えですか？

文化服装学院の教育の根幹は、基礎をしっかりと身につけることにつきます。これは景気のよし悪しに関わりません。もちろん、時代によって学生が理解しやすいメソッド、伝え方、ツールなどは変わっていくでしょう。例えば対面式でこそ技術は伝わるものと思っていましたが、動画配信でも一定の学習効果が得られるとわかった今回のように。これは教職員が絶えずスキルアップしていくことで補えますが、学生個人の能力という意味においては、やはり基礎の先にこそ飛躍があると思っています。世界が認める文化服装学院の強みとして、ここはぶれずに取り組んでいきたいと考えています。

また学院長として、文化服装学院をファッションが大好きな人が誰でも学べるような場所にしたいと考えています。経済格差は、このコロナ禍でより広がっています。意欲ある学生から修学の機会が奪われないようにするためにも、さらなる奨学金制度や教育環境・施設を整えていくことを私の職責として、取り組んでまいります。

——すみれ会員の皆さまへメッセージをお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、本年度の文化祭もオンラインでの開催が決定いたしました。そのため、すみれ総会やすみれサロン、すみれ市といった対面での関連イベントも会員の皆さまの安全を第一にやむなく中止とさせていただきます。貴重な意見交換、そして旧交を温める機会が2年にわたり開催できないことは残念というほかありませんが、どうか社会状況を踏まえた判断とご理解いただければ幸いです。

そして、2023年には文化学園創立100周年を迎えます。文化服装学院の伝統を守りつつ、新しい挑戦も視野に入れなければなりません。30万人以上もの会員の皆さまが作り上げてきた歴史を100年と言わず、200年、300年とつないでいけるように教職員一丸となって頑張っていく所存です。

*アンケート調査期間は、2020年10月19日～11月6日。調査対象は3,451名(休学者を除く、10月1日時点の全学生)、回収数は1,729名。系統別(講義系/演習・実技系)と形式別(ライブ型/オンデマンド型/テキスト・教材配布型)で、満足度を選択する形式を採用。



相原幸子 先生

すみれ会名誉会長
文化服装学院学院長

お悔やみ 大沼 淳先生

Condolences

「風、来たりば、花、自ら笑う」を哲学に。
いつの時代も、文化学園をよりよき方へと
導き、高めてくれた、大沼 淳先生をしのんで

並木学園(現・文化学園)常任理事・理事長代理就任から数えると61年間もの長きにわたり、高等教育の充実と発展、そしてファッション教育のあり方を模索してこられた大沼 淳前理事長が、2020年11月21日に逝去されました(享年92)。

61年間といえば、現在のすみれ会員のほとんどの皆さまが学生時代を過ごされていたとき、大沼先生が理事長を務められ、そのご指導を受けていたこととなります。学生時代、ふらりと学食に現れた先生と食事をともにされた方もいるかもしれません。威圧的な感じとは程遠く、いつも穏やかで、親しみを込めて「理事長先生」と呼ばれていたことから、そのお人柄がしのばれます。

大沼先生の功績はデザイナーをはじめ、数多くの優秀な人材をファッション業界に輩出されたことにとどまらず、社会、文化、そして産業界においても際立っています。夢を持った学生を送り出す側として、政財界、また皇室の方々との交流も重ね、広く社会をよきものにしたと考えていたのではないのでしょうか。

また、先生は学園創立40周年の頃から、2023年に迎える創立100周年を見据え、学園はいかなる変化にも対応できなければならないと考えていらっしゃいました。経済格差、自然災害、そして新型コロナウイルス感染症というパンデミックによる社会不安に覆われている現在、ファッションとどう向き合い、前へ進んでいくべきか……大沼先生がヒントを残してくれています。

「風、来たりば、花、自ら笑う(風来花自笑)」。人生は順調なことばかりではない。苦境だからといって、不運を嘆き、人を恨み妬んではならない。自らの誠意を積み重ねること。そうすれば必ず成果がついてくる、と。

すみれ会員の皆さまとともにご冥福をお祈りいたします。



- 1 昭和33年(1958年)、ピエール・カルダン氏が初来校。ここから、長年にわたる交流が始まった。
- 2 昭和36年(1960年)、学校法人並木学園(現・学校法人文化学園)理事長就任祝賀の典より。
- 3 昭和39年(1964年)の欧州旅行の際、マドモワゼル シャネルと言葉を交わす大沼理事長。
- 4 昭和54年(1979年)、遠藤記念館 大ホールのこけら落としとして開催された「遠藤記念館落成記念ファッションショー」。学院を巣立ち、国内外で活躍するデザイナー 10名が勢ぞろいし、華やかなショーとなった。左から、今井田 勲出版局長、高田賢三、コシノジュンコ、長谷川 豊、金子 功、北原明子、コシノヒロコ、大沼 淳理事長、坂出忠臣、鈴木紀夫、山本耀司、松田光弘の諸氏と小池千枝副学院長。
- 5 文化服装学院名誉教授でもあるピエール・カルダン氏。平成22年(2010年)、記録に残る最後の来校。米寿のお祝いに、学園から寄贈した特別詠いの羽織を着るカルダン氏と固い握手をする大沼理事長。
- 6 装苑賞公開審査会の際には、審査員の方々との記念撮影をするのが恒例だった。こちらは平成28年(2016年)6月14日、第90回装苑公開審査会より。前列左より、廣川玉枝、コシノジュンコ、大沼 淳理事長、津森千里、田山淳朗、後列左より、児島幹規装苑編集長、高島一精、岩谷俊和、丸山敬太、皆川 明の諸氏。
- 7 令和3年(2021年)7月8日に開かれたお別れの会。遺影は勲二等瑞宝章が授与された際のもので、大沼先生がファッション業界発展に寄与した功績をうかがうことができる。

※肩書きは当時のものです



3



4



5



6



7



経歴

[履歴]

- 1945年 海軍兵学校修了(終戦のため)
- 1949年 人事院に採用される
- 1960年 学校法人並木学園(現・学校法人文化学園)理事長
- 1963年 株式会社市川製作所(現・市光工業株式会社)社長
- 1969年 文化女子大学(現・文化学園大学)学長
- 1974年 学校法人城右学園(現・学校法人文化杉並学園)理事長(2017年より学園長)
- 1976年 文化服装学院長
- 1980年 文化外国語専門学校の校長
- 1983年 学校法人文化長野学園理事長
- 1987年 文化学園服飾博物館館長
- 2006年 文化ファッション大学院大学学長
- 2019年 学校法人文化学園 理事長退任

[公職歴]

- 1964年 全国各種学校総連合理事長
(現「全国専修学校各種学校総連合会」最高顧問)
- 1965年 文部省大学設置審議会委員 9期
- 1968年 文部省私立大学審議会委員 2期
- 1971年 社団法人日本YPO(日本青年社長会)会長
- 1984年 臨時教育審議会専門委員
- 1991年 財団法人日本ファッション教育振興協会会長
(2011年一般財団法人へ移行、同理事長)
- 1993年 文部省大学設置・学校法人審議会委員 3期
ファッションビジネス学会会長
- 1994年 NPO(日本社長会)会長
- 1996年 財団法人私学研修福祉会理事長 3期
- 1998年 繊維ファッション産学協議会副理事長
- 2000年 日本私立大学協会会長
日本私立学校振興・共済事業団運営審議会委員
(2006年より同会長)
文部省国立大学等の独立行政法人化に関する
調査検討会委員 2期
- 2003年 独立行政法人国立博物館運営委員会委員
(2005年より同副委員長)
東京国立博物館評議員会評議員(2005年より同会長)
- 2007年 独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員
- 2013年 公益財団法人日本博物館協会評議員

[受章歴]

- 1984年 藍綬褒章
- 2002年 功績勲章勲二等(ルーマニア政府より)
- 2003年 勲二等瑞宝章
- 2004年 飯山市名誉市民
- 2006年 社団法人全国日本学士会アカデミア賞
- 2009年 渋谷区名誉区民

お悔やみ 高田賢三さん

Condolences

パリへの扉を開けてくれた高田賢三さん。
ファッションを愛し続け、
生来のクリエイターとして生き抜いた81年を讃えて

©MASARU MIZUSHIMA



2020年1月、高田賢三さんはK三(ケースリー)というホーム&ライフスタイルに特化した新ブランドをスタートさせたばかりでした。この新たなプロジェクトがどんな成長を遂げ、花を咲かせるのかと、誰よりも胸を膨らませていたことでしょう。しかし同年10月4日、文化服装学院生・卒業生のみならずファッションを愛するすべての人にとって憧れの存在であった高田賢三さんが、新型コロナウイルス感染による合併症のた

め、その人生の幕を下ろしました。

1962年に文化服装学院デザイン科を卒後し、三愛のデザイナーとなったものの、1965年に渡仏。1971年、ギャルリー・ヴィヴィエヌにオープンさせたブティック「ジャングル・ジャップ」で、パリの伝統的なクチュールとは一線を画した、日本の着物・浴衣地や蚤の市で見つけたリボンなどを使ったチャーミングな服の数々を発表し、デザイナーとしての存在感を示しました。その後の活躍は皆さんが知るところ。おおらかで、自由な感性のレイヤード&フォークロアスタイルを極めたKENZOスタイルは、これからもモード史の中で輝き続けるはずです。

訃報に際しては、日本だけではなく、世界的なニュースとなったこともすみれ会員の皆さまはご存じでしょう。とりわけ賢三さんが暮らしたフランスでは、多くのデザイナー、仕事とともにした仲間たちだけでなく、マクロン仏大統領、パリのイダルゴ市長も追悼コメントを出されていました。パリに愛された人、それが賢三さんなのです。

パリを拠点とされていましたが、賢三さんはたびたび文化服装学院を訪れ、恩師に近況を報告したり、学生たちに夢を持つことの大切さを語っていたといえます。また、自身を育ててくれたという感謝と後輩へのエールを込めて、多くの作品を母校に寄贈くださいました。今年6月1日から27日まで、文化学園服飾博物館で開催された「Dreams-to be continued- 高田賢三回顧展」の展示品の多くは、そうした寄贈作品が元となって構成されたものです。

賢三さんの冒険は終わりましたが、これから冒険を始めようとしている後輩たちの一喜一憂を天国から温かく見守ってくれていることでしょう。ご冥福をお祈りしております。



1

撮影 大倉俊二

2



撮影 岩田弘之



撮影 吉田大朋

3



4



1. 親しい友人でもあり、ミュージムでもあったモデルの山口小夜子さんと。1982年。
2. パリのギャラリー・ヴィヴィエヌにオープンさせた「ジャングル・ジャップ」。このブティックで行われたモデルによるプレゼンテーションは、プレタポルテの先駆けといわれている。1970年。
3. 1970-71年秋冬コレクションの際に配布されたプログラム。当時のパリ支店スタッフによるフランス語訳や取材メモが書き残されている。1970年
※1～3はすべて「Dreams-to be continued- 高田賢三回顧展」図録より
4. 「Dreams-to be continued- 高田賢三回顧展」展示風景。第8回(1960年)「装苑賞」受賞作品やデザイン画をはじめ、文化学園ファッションリソースセンターと文化学園服飾博物館が所蔵する数々の作品、関連映像が展示・上映された。特に世界各地の民族衣装とKENZOの服を並べて展示する方法は、文化学園服飾博物館ならではといえる。



KENZO 専属テキスタイルデザイナー
真下仁さんが描いたシャクヤクが表紙の「Dreams-to be continued-高田賢三回顧展」図録とマスクケース、展示内容を動画で見られるメディアの特別セットを販売いたします。展覧会を見逃した方、保存版として、お手元に残しておきたい方はぜひお求めください。

予価2000円(税・送料込)

■お問合せは、「文化学園ファッションリソースセンター」TEL:03-3299-2187

卒業生の活躍

Alumni Information

世界最初の新型コロナ感染の症例が発表されてから、間もなく2年を迎えます。その後、日本では2020年4月7日に最初の緊急事態宣言が発出され、感染増加と収束が繰り返されています。

ここでは、つい後ろ向きになってしまいそうな状況下にあっても、新たなアクションを起こし、ポジティブな気持ちで前に向かっていくすみれ会会員の皆さまの情報をお届けします。

HIROKO KOSHINO

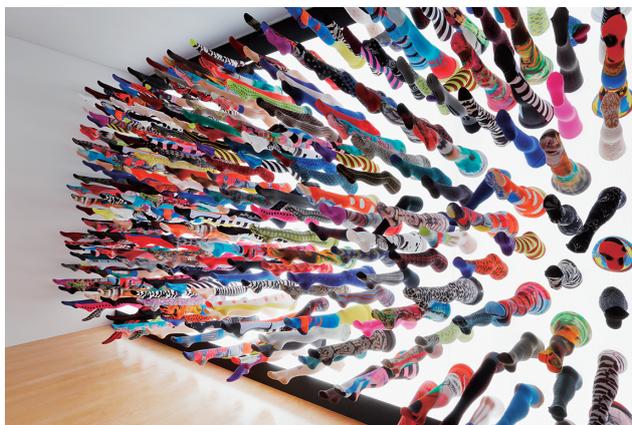
ヒロココシノ

コシノヒロコ

HP <https://www.hirokokoshino.com>

「オリ・パラを避ける予定も、 今開催できてよかった」という、コシノヒロコ展

2021年4月8日～6月20日まで、兵庫県立美術館で開催された「特別展 コシノヒロコ展 -HIROKO KOSHINO EX·VISION TO THE FUTURE 未来へ-」。ファッション界の第一線で活躍し続け、デザイナー歴は60年を超えるが、アーカイブ展にはしたくなかったという。「現代に通用するものだけを選び抜きました。若い人に、ほんまもの、美しいものを見て、感じてほしかったからです。それは美しいもの、精神に刺激を与えるもの、つまり文化や芸術は、人間の心の中に安定を生むと信じているから。5年前に企画がスタートした際には、東京オリンピック・パラリンピックを避けるために2021年開催としていたのですが、逆に今の時期に開催できてよかった。コロナ禍があって、この展覧会は“精神のワクチン”となったように思います」。来場者の実に44%は20～30代という結果から、コシノさんの思いや願いは、確実に若い世代に届いたようだ。「どんな状況でも、“時代に必要なもの”をつかみ、ポジティブでいられるような作品を発信し続けること」を使命に、未来へとバトンをつないでいく。



JUNKO KOSHINO

ジュンココシノ

コシノジュンコさんの行動と言葉が誰かを元気にする！ 「コシノ語録集」発売中。

コシノジュンコさんの発言と思い出深いエピソードの数々を集めた『コシノジュンコ 56の大丈夫 失敗も逆境も力に変える、パワフルウーマン語録』が今年2月に発売された。時代を作ってきたクリエイターとの交流を写した数々の写真をはじめ、花の9期生の仲間・高田賢三さんとの青春時代、キューバやブラジルで敢行し、奇跡ともいわれたファッションショー、ニューヨークのメトロポリタン美術館でショーを行うにいたったエピソードなどはそのまま日本の服飾史といっても過言ではないほど。そして、それらの経験から得た、貴重な言葉。伊藤博文の言葉を引用したページには、「彼のような大物が、自身の経験から得て語る言葉を、人生の早いうちから知って生かせるって、いいですね。大人になってからじゃ遅いわね(笑)」とあるが、読む人にとってはコシノさん自身の経験から得て語られる言葉を知ることの幸運は計り知れない。

2022年4月には、大分県立美術館OPAMにて、展覧会も開催予定。おもしろがる才能を存分に発揮し、見たことのないものを見せてくれるに違いない。



『コシノジュンコ 56の大丈夫 失敗も逆境も力に変える、パワフルウーマン語録』
コシノジュンコ著、世界文化社刊、1980円(税込)



MARIKO KOHGA RÊVE

マリコ コウガ レイヴ

甲賀真理子(コウガマリコ)
HP <http://www.mariko-kohga.com>
Instagram @mkr_kohga

年齢を重ねても、素敵な服を楽しみたい 全国の女性へ向けて

装うことの楽しさを提案し続けてきたマリコ コウガ。近年は展示会方式で、サイズオーダーを続けていたため、新型コロナウイルス感染症の影響が及んだ。そのためフリーサイズを中心とした新ライン、マリコ コウガ レイヴとオンラインショップを2021年4月にスタート。「いつまでも素敵な服を着る喜びを忘れてほしくないという思いを込めて、フランス語で夢を意味するレイヴ(rêve)をブランド名に加えました」と甲賀真理子さん。この秋冬の新作は、使い勝手のいいネイビーと着回しできるアイテムを中心にした展開。ストレッチレースを多用するなどして、オンラインショップで服を購入する際のサイズや着心地のミスマッチを起こさないように工夫されている。

現在はハイブランドの広告に高齢の人が起用されたり、おしゃれを楽しむ中高年のSNSが話題になったりと一昔前と時代は変わったように感じられる。年相応ではなく、自分相応。そんな気運の中で生まれたブランドだ。

COSTUME PLAY

コスチュームプレイ

岩谷俊和(イワヤ トシカズ)

HP www.costumeplay.jp
Instagram @costumeplay.jp
info@costumeplay.jp

よりプライベートなブランドを 手がけたい気持ちの高まりを形に

東京でドレスの作り手といえば、岩谷俊和さんを挙げる人は多いだろう。カール・ラガーフェルドを驚かせた逸話をもつ「DRESS CAMP」はもちろん、2012年からは「YUMI KATSURA」のデザインディレクターを務めている。

華やかな受賞歴もあってか、ビッグプロジェクトへの関心が強いのだろうと思っていたところに、スモールレザーグッズのブランドをスタートさせたというニュースが届いた。「よりプライベートなブランドを作りたいと考えていた」タイミングと、コロナ禍でのライフスタイルの急激な変化が重なった。LIFE IS PLAYをコンセプトにし、カラフルなクリスタルスタッズやロゴをあしらったポーチや財布をそろえている。ブランドデビューを記念して、今年5月14日～6月1日に伊勢丹新宿店で開催したポップアップショップは大好評のうちに終了。10月以降にも同じイベントが予定されている。



TENDER PERSON

テンダーパーソン

初の直営店も、初のランウェイショーも、タイミングと縁を大切に実現

ヤシゲ ユウトさん、ピアンカさんのデュオによるテンダーパーソンは、二人がまだ在学中となる2014年にブランドを設立。ユニセックスで、自分を表現することに常に自由であること (To be free to constantly pursue and express oneself) をブランドコンセプトに掲げた、人気のユニセックスブランドだ。2020年2月には、初の直営店「BOUTIQUE NARAN by TENDER PERSON」を東京・南青山にオープンさせ、今年6月26日には2022年春夏コレクションを初のランウェイショー形式で発表した。「ショーはまったく考えてない」と発言してきたブランドだが、作品性を持たせた服作りを意識し始め、海外での発表も視野に入れ始めていたがコロナ禍の影響で頓挫。次のステップを考えていたところに、同じく新型コロナウイルス感染症の影響で営業できなくなっていた新施設「OR」でのイベントを持ちかけられたことが直接のきっかけとなった。バイヤー、メディア関係者、インフルエンサー他が来場。当初の計画とは異なるものの、結果海外での取引先が増えたという。



ヤシゲ ユウト
BIANCA(ピアンカ)
HP <https://tenderperson.com>
Instagram @tenderperson

annievintage

アニーヴィンテージ

高野彩月(タカノ ミヅキ)
HP <https://annievintage.jimdofree.com>
Instagram @annievintage_

幡ヶ谷商店街にオープンした 小さなヴィンテージショップ

物件契約後に最初の緊急事態宣言が発出されてしまい、当初内装工事が着手できないままステイホームを余儀なくされた。すると古着屋経営の夢を持っていた父親が休日ごとに通い、DIYで内装すべてを仕上げてくれたという。柔らかな日差しが差し込む店内にはノスタルジックなプリントのワンピース、美しいレースや刺繍を施したヨーロッパのヴィンテージウェアや小物が飾られている。

パターンや縫製のスキル以上に、「いつからだって、何か始めるのに遅いなんてことはない」ということを学院で学んだという。実際、高野彩月さんは大学を辞めて学院に入学。服作りは未経験だったが、2016年、アパレルデザイン科を卒業。一度はプライダルの会社に務めたもののイギリスへと留学し、近隣諸国を旅しながら数々の古着を買集めた。まだまだコロナ禍ながら、人通りの多い渋谷区・幡ヶ谷商店街の路面店ということもあり、お客さまの来店が相次いでいる。今年8月には、大阪の阪急うめだ本店でポップアップも開催。高野さんはこの小さなショップを拠点に、ヴィンテージのある生活を提案している。



HEOS

ヘオス

李 成曦(リ セイギ)
HP <http://www.heostokyo.com>
Instagram @heostokyo

3カ国で学び、自身のブランドを立ち上げ

中国・上海の東華大学を卒業後に、アクセサリーを学ぶためにミラノへ。上海でファッション関係の仕事に就くも、自身のブランドを立ち上げる夢の実現のために文化服装学院に入学。2020年に服装科を卒業すると、同じくさまざまな経験を持つ友人・暁川翔真さんと共にヘオスを立ち上げた。ブランドコンセプト「日常生活に高揚感、緊張感とリラックスを」と、今年4月に行った秋冬物の展示会がデビューとなる。「コロナ禍の中、ファッション業界の苦境を見聞しますが、それはチャンスと挑戦のタイミングだと思っています。世界の美しさを伝え、「今」の空気感が感じられる服作りを目指しています」。

学生時代には、数々のコンテストに挑戦したことが思い出。また学院で学ぶようになってから、それまでは好きでなかったパターンに興味を持てるようになったことが一番の驚きだとか。ブランドは立ち上がった。これからは、このブランドを継続していくためにさらなる努力を重ねていくのだろう。



MASU

エムエーエスユー

後藤慎平(ゴトウ シンペイ)

Instagram @masu_officialaccount

コロナ禍において、初めてのランウェイショーを開催

2017年にスタートした「masu」(現MASU)のリブランディングを機に、デザイナーに就任した後藤慎平さん。丁寧語の「ます」を由来とするブランド名の通り、服作りへの丁寧な態度を貫くメンズブランド。「誰かにとつてのヴィンテージになり得る服作り」を標榜し、若手筆頭との呼び声も高い。

2021年2月18日にブランド初のランウェイショーを開催。新型コロナウイルス感染対策のためごく少数の関係者のみの招待だったが、「景気に関わらず、考えることを止めないで、その時に最適なアイデア、クリエイション、発表方法、ビジネスモデルを模索し続けることの大切さを痛感しました」と、その手応えはすぐにセールスに結びついたという。

後藤さんは、2014年、アパレルデザイン科メンズデザインコース卒業。知識や技術的なこと以上に、学院で培った仲間たちとの繋がりが財産。「ファッションから離れた仲間も応援してくれている。洋服を通して繋がった人との縁は、力強いものであることを実感しています」



Itabamoe

イタバ モエ

板羽 萌(イタバ モエ)

HP itabaoe.com

Instagram @itabamoe

企業デザイナーから、イラストレーターへ。初個展を開催したitabamoeさん

2012年にアパレルデザイン科を卒業後、しばらくはアパレル企業でデザイナーとして勤務。その仕事の延長線上でWebデザイン、広告デザインに携わるようになり、2015年からイラストレーターとして活動を始めたitabamoeさん。ヘルシーな色が漂う彼女の作品は、コスメやサニタリーグッズのパッケージでも見かけるほどの人気だが、意外にも今回が初個展。「物陰から覗き見するような気持ちで描いた」というイラストは、女性が見ても少しドキドキしてしまうほどだ。「100%、自分の好きな世界観に向き合っ、表現する時間になりました。これまではクライアントワークに全力を注いできましたが、これからの活動の軸をどこに置くべきなのか、自分にもプレゼンした感覚」というのは、初個展を開催したことで気づけたことだという。

作品の魅力であるボディライン、スタイルは、学生時代のデザイン画の授業がベースになっている。Photoshopやillustratorは、在学中は何に使うんだろうと思っていたというが、いまや欠かせないツールとなっている。



Alumni Information

RYUKYU PANAMA by MAISON Birth

琉球パナマ

清原世太(キヨハラ セイタ)

HP <https://ryukyu-panama.jp/>

Instagram @ryukyu_panama_hat/

100年以上、忘れ去られていたアダン葉の帽子を復活

帽子に関する古い文献で、見知らぬ素材名に引かれたのがきっかけ。そして沖縄に自生するアダンの葉でできた消滅寸前の帽体に出会ったという。「高温多湿の環境下に自生するアダン葉は、しなやかで割れにくい、圧倒的な耐久性が特徴です。そのため70年ほど前に使われていた帽子も無傷の状態で見つかります。仮に破れてしまっても、編み手(ボーシクマー)により修理可能。帽子とはいえ3世代にわたって受け継ぐこともできます」。今年6月からはニューヨークのセレクトショップでも取り扱いが始まった。「海外では商品に対する思いのほか、環境問題や労働背景といったこともよく聞かれます。最初はアダン葉の帽子を作りたいだけでしたが、沖縄に通ううちに、若年層の失業率の高さ、低所得がゆえのダブルワーク、加えて新型コロナウイルス感染症による観光産業の打撃を目の当たりにしました。この琉球パナマ帽をフックに、伝統、雇用、環境、経済等を巻き込んだプランを模索しているところです」。アパレルマーチャンダイジング科を卒業して20年。清原さんは帽子作りを通して、社会が取り組むべき課題に日々奮闘している。



お知らせ

すみれ会報誌は年に1回発行しております。新ブランド始動、ショップオープン、展覧会開催ほか、会員の皆さまの活動情報をぜひお知らせください。次号のコンテンツ充実を図るため、参考にさせていただきます。

文化服装学院すみれ会事務局 〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073 sumirekai@bunka.ac.jp



「2020年(第38回)毎日ファッション大賞」を beautiful peopleデザイナー熊切秀典さんが受賞

年間を通じてファッションという文化活動の中で最も優れた成果を上げた人(デザイナー、経営者、コーディネーター等)、企業、団体に与えられる「毎日ファッション大賞」(毎日新聞社主催、経済産業省後援)。第38回となる2020年の大賞を、「beautiful people(ビューティフルピープル)」デザイナーの熊切秀典さんが受賞されました。

熊切さんは、1997年にファッション工科専門課程 アパレル技術科を卒業。コム デ ギャルソンでパタンナーとして経験を積んだ後に外注パターン会社を設立し、2007年春夏シーズンにビューティフルピープルを立ち上げました。設立10年目となる2017年秋冬シーズンよりパリ・コレクションに参加し、着実に世界進出を果たしている点に加え、型紙設計の新たな可能性を切り拓く「Side-C(サイドシー)」の展開、そして、コロナ禍においても変わらぬ視点、ゼロから新しいものを継続して作りだそうとする姿勢が受賞理由です。

特に2019年春夏シーズンより発表されているSide-Cは、熊切さんのパタンナーとしての経験の賜物。これまで意識されず、名称さえなかった部分に新たな機能を与えたもので、2020年春夏コレクションともなると一枚の服で24通りもの着用バリエーションを可能に。言葉だけで説明するとコンセプトありきの面白さとはかけ離れた服ではと思うかもしれませんが、一度手にすれば、どう着るか、着たいかが個人にゆだねられた、実に自由な服となっていることに気づくはずです。

2021年6月22日に開催された第95回装苑賞からは審査員にも就任。これからは自身のクリエイティビティをさらに押し広げるとともに、世界への飛躍を夢見る若者たちのメンターとして、業界全体を導く主役の一人として活躍が期待されています。



2020年秋冬コレクション Side-C vol.4より



2020年春夏コレクション Side-C vol.3より

info

HP <https://beautiful-people.jp/>

インスタグラム @beautifulpeople_officialsite/

ビューティフルピープル 青山店 TEL: 03-6447-1869

すみれ会の活動

Activity description

すみれ会奨学金

「文化服装学院すみれ会奨学金制度」は、将来のファッション業界で活躍が期待される準会員の支援を目的とし、平成28年度より施行しております。会員の皆さまからのご寄付も一部活用させていただいている同制度。2021年度においても成績優秀な在学生4名が選抜され、日々の学業にいかされていることをご報告いたします。

また、例年入学式の壇上において授与式を執り行っておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、新入生が一堂に会する形での入学式が中止となったため、授与式は割愛いたしました。

[2021年度すみれ会奨学金受給者]

服飾専門課程 服飾専攻科 オートクチュール専攻
石原文香さん

服飾専門課程 服飾専攻科 オートクチュール専攻
品村帆風さん

ファッション流通専門課程 ファッション流通専攻科
加藤瑞希さん

ファッション流通専門課程 グローバルビジネスデザイン科4年
鈴木明日香さん

会員限定、オンライン講演会開催

文化服装学院の同級生であり、また現在のファッション界をそれぞれの分野で牽引する、佐藤正樹(すみれ会会長 佐藤繊維株式会社 代表取締役)と田中和安(ユナイテッドアローズ株式会社 執行役員 営業統括本部 本部長)の両氏によるオンライン講演会を開催いたします。不安の多い社会状況の中で、ファッション(アパレル)業界に求められていることなどについて語っていただく予定です。



左:佐藤正樹氏、右:田中和安氏

開催日時、テーマ、視聴方法については、10月下旬をめどに、すみれ会ウェブサイト(右のQRコードからアクセス可)にて告知いたします。ぜひご覧ください。

開催日時、テーマ、視聴方法については、10月下旬をめどに、すみれ会ウェブサイト(右のQRコードからアクセス可)にて告知いたします。ぜひご覧ください。



すみれ会ウェブサイト / <https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp>

2021年度文化祭、オンライン開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度の文化祭は2020年度同様、オンライン上での開催となりました。在校生の学びの現在地、後輩たちのパッションを体感する機会を楽しみにされていた皆さまには心よりお詫び申し上げます。詳細が決定次第に、文化服装学院のウェブサイトにてお知らせいたします。

すみれ会関連イベント中止のお知らせ

例年、文化祭期間中に開催しております文化服装学院すみれ会総会・同窓会パーティ、すみれサロン、およびすみれ市は2021年度文化祭のオンライン開催に伴い、開催中止とさせていただくことになりました。昨年に続いての中止となり、予定して下さっていた皆さまには心よりお詫び申し上げます。感染症拡大防止のため、このような判断となりましたこと、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

寄付のお願い

すみれ会は会費のみで運営しています。より円滑な運営が図れますよう、また将来のファッション界を担う準会員の支援のため、卒業生の皆さまにはすみれ会の活動をご理解いただき、寄付金をお願いいたたく存じます。

■寄付金の募集要項

[寄付金の使途]

学業優秀で今後の活躍が期待される在校生へ、授業料の一部を給付

[申込み方法]

郵便振替にてお振込みください。

■振込先: ゆうちょ銀行振替口座

■口座記号番号: 00150-7-766997

■口座名称(漢字): すみれ会寄付金口

■口座名称(カナ): スミレカイキフキンゴチ

[寄付金対象者]

すみれ会員、法人・企業

[寄付金の額]

1口1,000円より3口以上
なお、金額の多寡にかかわらず
ありがたく承ります。

※控除対象外

※ゆうちょ銀行以外から

振り込まれる場合は下記となります。

■ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュウ)支店

■当座預金 口座番号0766997

[募金期間]

募金期間は定めておりません。
継続的に募金活動を行っております。

[問合せ先]

文化服装学院すみれ会
TEL: 03-3299-2073

Online Show, SNS

文化服装学院での学びを途切れさせない、 SNSでの発信、オンラインでのショー公開への工夫

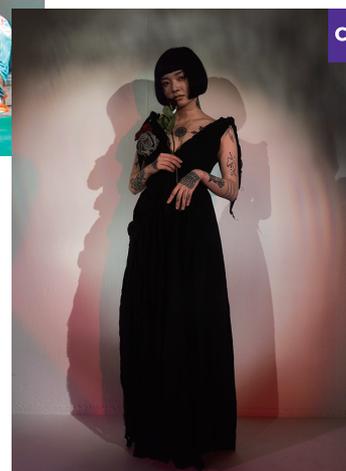
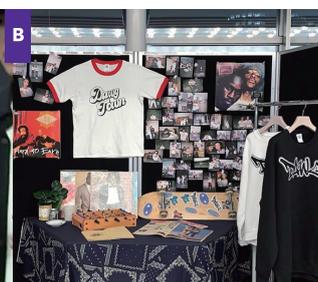
長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、日々の学業、イベントは縮小や中止を余儀なくされています。そんな中でも学生の自発的な意欲の高まりを支援するため、SNSでの発信を強化し、各ショーもオンラインで配信。再生回数は日を追って増えており、文化服装学院の魅力を幅広く周知する新たなツールの一つとなっています。

BUNKA ONLINE FES ～文化祭2020～

毎年11月、3日間にわたって開催されている文化祭。2020年度は、10月以降、「BUNKA ONLINE FES」と題して、計13ものコンテンツ動画を配信しました。各科のオンラインファッションショーのほか、ファッション画展、在校生や卒業生による座談会に加え、「2020年、特別な時代の特別な学校生活」という動画も引き続き配信中となりますので、ぜひご覧ください。コロナ禍における授業風景、そんな中でも在校生たちが夢を持って、日々を過ごしているかといった生の声を聞くことができます。



- A** ファッション流通過程の有志学生によるファッションショー「CONNECT」。発表の機会が失われた2020年度卒業・修了制作作品が多数登場する。
- B** 2013年にスタートし、文化祭でも数多くの集客を誇るファッション流通科2年リテールプランニングコースの「RE-TENT」。こちらもオンラインショップとして出店。
- C** Ⅱ部(夜間部)有志学生による、デジタルファッションプロジェクト「いろはにほへと」。例年はランウェイショーのみの開催となるため、こちらは初めての映像作品として必見。
- D** コロナ禍での授業風景、そこで懸命に学ぶ学生たちのリアルな声が聞ける、貴重な動画。



2020年度 卒業制作発表会オンライン配信

学びの集大成を幅広い方々に見てもらえる卒業制作発表会もオンライン配信となりました。こちらはなんと計21もの動画がアップされています。ファッション高度専門士科4年(写真下)は、L'OREAL PROFESSIONNELチームがヘア&メイクアップをサポート、ファッション流通科専攻科ファッションディレクター専攻科(写真右)は、在校生・卒業生ブランドとともに東京スカイツリー展望内でランウェイショーを行うなど、通常の卒業制作発表会とは異なる感動、発見もみられるはずです。



SNSの活用

社会的にもトレンド発信のツールであり、あらゆる情報にリーチできるSNS。文化服装学院でも、SNS発信を活用しています。文化服装学院公式Instagram、LINE、ツイッターの他、BUNKA ONLINE FESや卒業制作発表会の動画が見られるYouTube公式チャンネルはもちろん、学生たちが中心となって運営しているSNSも。今現在の学生たちがファッションとどう向き合い、学びを深め、発展させているかを感じてみてください。

文化服装学院公式チャンネル



ご紹介したBUNKA ONLINE FESや2020年度卒業制作発表のショーなどの動画を見るならこちら。卒業生や在校生の取材動画も。

公式Instagram



テレビなどのメディア情報から、各科・コースのニュースまで、文化服装学院の"今"を網羅。ぜひフォローしてください。

公式ツイッター



日々の学生生活からコンテスト情報、卒業生ブランドの動向まで、「#文化服装学院」とハッシュタグがついた最新ニュースを。

文化服装学院 学生作品



授業で制作した作品が日々アップされるInstagramアカウント。ご自身の学生時代を思い出して、比べても楽しいはず。

Contests, Collaborations

国内外のコンテストで相次ぐ受賞、企業コラボレーションも多数。
評価される、文化服装学院生！

国内外のコンテストに挑戦することで、実力を確認する学生たち。文化服装学院、文化ファッション大学院大学、全国の連鎖校を対象とした「文化服装学院ファッションコンテスト2020」にも迫力のある作品が集まり、学生同士で切磋琢磨してきたことを裏づけました。さまざまな取り組みが行われているコラボレーションの一部をご紹介します。

※在籍科・学年は受賞時となります

第40回ナゴヤファッションコンテスト2020

独創性に秀でた人材の発掘とファッション関連産業の活性化、知育のファッション風土づくりへの寄与を目的とした「ナゴヤファッションコンテスト」。2020年9月17日(木)に最終公開審査会が行われ、川部竜雅さん(ファッション高度専門士科4年)がグランプリを受賞しました。「piece of peace」というタイトルが付けられた作品は、色と柄のレイヤーとダイナミックなシルエットが印象的。世界8つの国と地域から応募された計4,909点の頂点に輝きました。尚、川部竜雅さんは同年12月18日(金)、「第20回YKKファスニングアワード」アパレル部門の審査員特別賞も受賞しました。



川部 竜雅さんと受賞作品。

ヘンペルアワード (第29回中国国際ヤングデザイナーコンテスト)

2021年3月24日(水)、25日(木)の日程で、ヘンペルアワード(第29回中国国際ヤングデザイナーコンテスト)の最終審査がオンラインで開催されました。近藤 旭さん(アパレルデザイン科3年)、鎌田 菜奈未さん(アパレルデザイン科3年)、ワイヤブットリー・ナッチャワーさん(アパレルデザイン科3年)が優秀賞を受賞。「Hard Candy Youth」というテーマのもと、トレンドと文化的特徴を持った個性的なスタイルが条件とされ、世界16カ国から977件のオンライン応募があったとのこと。個の表現の可能性とあふれんばかりのエネルギーに圧倒されることでしょう。



左から、鎌田 菜奈未さん、近藤 旭さん、ワイヤブットリー・ナッチャワーさんの各作品

Graduate Fashion Foundation 2021 International Awards(GFF)

2021年6月に開催された、英国内のファッション系大学が一堂に会する卒業イベント「Graduate Fashion Week」。そこで行われたコンテストの一つ、「Coats×Graduate Fashion Foundation Sustainability Competition」国際部門で、天羽恵理紗さん(ファッション高度専門士科4年)がグランプリを受賞しました。テーマは「ステッチをポイントにしたアップサイクルウェア」ですが、もともと3年次の課題で制作したコートで応募。祖母から受け継いだ生地や糸を使用し、自身のアイデンティティとサステナブルな物作りを見事に融合させています。



天羽 恵理紗さんのデジタルポートレートと実物作品

文化服装学院ファッションコンテスト2020

【デザイン部門】

メンズ、レディースを問わず、次世代を担うデザイナーを発掘することを目的とし、創造性、革新性、完成度を基準として審査されます。デザイン画による応募総数1,748点のうち、一時審査を通過したのは20点。2020年12月10日(木)の最終審査会でショー形式による発表を経て、受賞者が決定されました。

デザイン大賞 石川 泰生さん(ファッション高度専門士科3年)

優秀賞 三浦 明莉さん(アパレルデザイン科3年)

秀作賞 村上 真子さん(アパレルデザイン科2年)

佳作 服部 誠史さん(名古屋ファッション専門学校)

佳作 林 えりさん(愛知文化服装専門学校)



石川 泰生さんと受賞作品。

【技術部門トワリスト】

技術とクリエイションを競うコンテスト。課題デザイン画をもとに、バックスタイルは自由に制作するのが同部門の特徴であり、トワリストとしての腕のみせどころ。2020年12月8日(火)に公開審査会が行われました。なお、課題デザインは、宮本 瑞歩さん(ファッション高度専門士科4年)が手がけました。

トワリスト大賞 薄井 優乃さん(アパレル技術科3年)

佳作 中川 あいさん(アパレル技術科3年)

佳作 大坪 萌海さん(服飾専攻科技術専攻3年)



薄井 優乃さんと受賞作品。

【服飾工芸部門】

バッグ・シューズ・帽子・アクセサリ・テキスタイル各分野の優秀なデザイナーを発掘することを目的としており、創造性、革新性、機能性、完成度を基準とし審査される部門です。応募総数277点のうち、最終審査に進んだ10点から、受賞者が決定されました。

服飾工芸大賞 石井 さくらさん(ファッションテキスタイル科2年)

佳作 中島 萌さん(帽子・ジュエリーデザイン科2年)

佳作 ヨウ・キンコウさん(ジュエリーデザイン科1年)



石井 さくらさんと受賞作品。



公開審査会の模様、
また1次審査を通過したデザイン画は、
文化服装学院ホームページでご覧いただけます。

CASIO×CULTURAL LAB.コラボレーション

ファッション流通高度専門士の有志学生による学生ラボ「CULTURAL LAB.」が、カシオ計算機とコラボレーションを実施。「The Choice is YOURS(選択はあなた次第)」というコンセプト決定から、カラーリング、フォント、パッケージデ

ザインに至るまで手がけています。2021年5月に発表された第1弾はビビッドなネオンカラー、8月31日に発表された第2弾はシアーなモノトーン調。CASIOオンラインストア、文化学園購買部に数量限定で販売中です。



インフォメーション

Information

会計報告

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、すみれ会総会が中止となりました。そのため会計報告は監査委員による監査を経て役員に報告がなされ、承認されました。2021年度予算案とともにここに掲載し、会員の皆様にご報告いたします。

2020年度 収支報告

期間：2020年4月1日～2021年3月31日

収入

項目	予算	決算
会費収入	11,530,000	11,411,000
事業収入	—	—
雑収入	5,000,000	2,705
寄付金収入		1,013,000
収入合計	16,530,000	12,426,705

2021年度 予算案

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

収入

項目	予算
会費収入	10,660,000
事業収入	0
合計	10,660,000

支出

項目	予算	決算
会員証発行費	300,000	520,217
会報発行費	2,500,000	2,160,052
事業支出費	2,500,000	119,827
事務運営費	500,000	133,677
会議費	280,000	5,000
出張交通費	50,000	
渉外費	0	0
報酬	0	1,401,400
慶弔費	200,000	32,060
奨学金	7,700,000	7,700,000
会費返金		180,000
雑費	5,000	1,430
予備費	2,495,000	
支出合計	16,530,000	12,253,663
前期繰越剰余金		90,252,349
当期剰余金		173,042
次期繰越金		90,425,391

支出

項目	予算
会員証発行費	300,000
会報発行費	2,500,000
事業支出費	3,000,000
事務運営費	500,000
会議費	280,000
出張交通費	100,000
慶弔費	200,000
雑費	5,000
奨学金	1,550,000
予備費	2,225,000
合計	10,660,000

会員手続きについて

永久会員への更新、会員証の再発行、氏名・住所等の変更手続きは、文化服装学院すみれ会ウェブサイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

文化服装学院すみれ会ウェブサイト



<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp>

▶永久会員/会員証再発行/氏名・住所変更の手続き方法

- ①『会員特典・手続き』→『会員手続き』申し込みフォームに必要事項をご記入ください。
- ②永久会員への切り替え、会員証再発行の場合は、お申込み時に記載いただいたメールアドレス宛に、会員証発行費のお支払先をご案内いたします。
- ③会員証発行費のお支払いが確認でき次第、ご登録の住所に会員証を郵送いたします。

▶すみれ会Web会員登録のお願い

Web会員へは無料でご登録いただけます。Web会員の皆様には、ご登録いただいたメールアドレス宛に同窓会や文化祭などのイベント情報をお届けいたします。現在会員の皆様も、ぜひWeb会員へご登録をお願いいたします。尚、Web会員のみでの登録の場合は、会員特典が限定されますことご了承ください。

▶Web会員登録方法

『会員特典・手続き』→『会員手続き』申込フォームの「Web会員申込み」にチェックを入れて必要事項をご記入ください。

▶会員手続き、会員特典に関するお問い合わせ先

文化服装学院すみれ会事務局
〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073
受付時間:9:00-17:00

すみれ会会員特典

すみれ会では、会員特典をご用意しております。ご利用にあたっては「すみれ会会員証」をご提示ください。※特典情報は随時更新しております。最新情報はホームページをご覧ください。

特典① すみれ会報、ご案内の発送

同窓会誌「すみれ会報」を年に1回、お送りいたします。
また文化祭等のイベント開催にあたり、DM発送にてご案内いたします。

特典② 文化学園施設利用

文化学園図書館

ファッションに関する書籍、雑誌の所蔵では日本一とも言われる文化学園図書館。稀覯本から、トレンド予測情報誌、デザイナー作品集、雑誌ほかその数34万冊以上。開館スケジュールについては、文化学園図書館ホームページ掲載の「図書館カレンダー(卒業生用)」をご確認ください。

TEL:03-3299-2395
<https://lib.bunka.ac.jp/>

文化学園服飾博物館

「衣」を通して日本と世界の文化を知る」をテーマとして、年4回程度の企画展を開催。世界各国から収集された貴重な衣服や染織品、デザイナーの作品などによる展覧会が、無料にて鑑賞いただけます。

TEL:03-3299-2387
<https://museum.bunka.ac.jp/>

文化学園ファッションリソースセンター

布地に関する実物資料と情報を提供するテキスタイル資料室、コレクション動画やアカデミー賞受賞作品をはじめとする2,400本以上の名作映画等を所蔵している映像資料室がご利用いただけます。

HP:<https://www.bunka.ac.jp/frc/>

特典③ 文化学園事業利用の優待

文化購買事業部

GAKUEN SHOP 表生地・手芸用品コーナー・書籍コーナーの商品を10%OFFでご購入いただけます。※一部対象外がございます。

TEL:03-3299-2034
<https://www.bunka-koubai.com/>

文化出版局

雑誌「装苑」「ミセスのスタイルブック」の定期購読を10%OFFにてお申込みいただけます。下記ホームページまたはお電話よりお申込みください。

▼特別割引購読の申込

富士山マガジンサービス

フリーダイヤル:0120-223-223

オペレーターに「クーポンコード:sumire2021」をお伝えください。

※クーポンコードの提示がないと特別割引は適用されません。

<https://www.fujisan.co.jp/campaign/bunka/>

文化服装学院生涯学習

文化服装学院の充実した施設と設備を利用しながら学べる、100以上のオープンカレッジと通信教育講座。ブラッシュアップにも役立つBUNKAファッション・オープンカレッジの入会金を、半額にてお申込みいただけます。

TEL:03-3299-2233
<http://lifelong.bunka-fc.ac.jp/>

いいやま北竜温泉 文化北竜館

ハート型の湖、北竜湖に隣接する北竜館は、北信州の四季を感じられるやすらぎと癒しの空間。ゆったりとした会議室もあり、企業の写真研修やセミナーにもご利用ください。夕食時のドリンクが無料サービスとなります。

〒389-2322 長野県飯山市大字瑞穂 7332-2
<http://www.bunkahokuryukan.com/>

文化軽井沢山荘

軽井沢ショッピングモールにも近い文化軽井沢山荘。おとぎ話に出てきそうなユニークなデザインのレストランは、晴れた日には浅間山を一望できる自慢の施設です。

〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町レイクニュータウン
TEL:0267-48-1525
<https://www.bunkakaruzawasansou.com/>

特典④ 協力企業によるサービス

日本旅行文化学園内旅行コーナー

日本旅行の全国店頭支店にて申込むと、パッケージツアーを5% OFFにてご利用いただけます。窓口にて、すみれ会会員証をご提示ください。

(WEB、電話でのお申込みは対象外)

国内:赤い風船

海外:マッハ、ベスト

※他社企画、WEBコレクション等、上記ブランド以外は対象外です。

※旧日本旅行OMCトラベルは除外となります。

※本人とそのご家族が対象です。

※その他各種割引との重複利用はできません。

会員特典にご協力いただける企業、お店を募集しています。

会員証の提示で割引が可能になる、特典をつけてくださるなど、卒業生の皆さまのご好意をお待ちしております。

問い合わせ先:すみれ会事務局 TEL:03-3299-2073

文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ

民族衣装—異文化へのまなざしと探求、受容—

2021年 11月1日(月)～2022年 2月7日(月)



- 1 『各国民の服装、風俗、慣習』エリエス著、1821年(文化学園大学図書館蔵)
- 2 「ドレス」ケミス、アフガニスタン、1970-80年代(松きよえ収集)
- 3 上は「男性衣装」アラブ地域、右は「ドレス」サンローラン、1977年

現代のように情報が飛び交うことのなかった時代には、世界各国・地域の民族衣装が研究対象の一つとして、人々の知的好奇心を満たしていました。その土地の風土、文化に根付いた意匠、素材の多彩さに瞠目したことは想像に難しく、多くのファッションデザイナーにとってもインスピレーションの源となりました。本展は、アジアやアフリカの民族衣装が日本やヨーロッパでどのように紹介されてきたかという観点で構成。当館が誇る民族衣装コレクション、文化学園大学図書館所蔵の貴重な書籍の数々、そしてデザインやカッティングなどに民族衣装の影響を受けたヨーロッパのドレスとの比較展示も。サンローランをはじめ、高田賢三、アライア、ジャン＝ポール・ゴルチエなどの作品の元となった民族衣装とともに紹介されるなど、長年、服飾文化を研究してきた文化学園服飾博物館ならではの展覧会となっています。

開館時間：午前10時～午後4時30分

11月12日、2022年1月21日は午後7時まで開館。入館は閉館の30分前まで。

※新型コロナウイルス感染症の状況によって会期、開館時間、閉館日等を変更する可能性があります。当館ホームページにて最新情報をご確認の上、ご来館ください。

休館日：日曜・祝日 12月28日～2022年1月5日(11月3日は閉館、11月5日は休館)

入館料：一般500円、大学・専門学校生・高校生300円、小・中学生200円

※すみれ会員の方は会員証のご提示により

無料でご覧いただけます。

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

新宿文化クイントビル TEL:03-3299-2387



文化服装学院 教員採用情報



[募集概要]

常勤助手(服装造形部門/ファッション流通部門)

■募集人数:若干名

■就任時期:2022年4月1日(金)

■応募資格:学校が定める学歴条件を満たす者

※詳細は「文化服装学院Webサイト 教員採用情報(助手)」を参照ください。

■応募方法

まずはメールでお問い合わせください。折り返し詳細をご連絡いたします。

■選考プロセス

書類選考→筆記(実技)試験→面接→内定(予定)

■応募書類提出締切

2022年1月5日(水)

■問合せ先

文化服装学院 事務局 教務部 教務一課 高久/伊藤

TEL:03-3299-2250 / 2298 メールアドレス gakuin-saiyou@bunka.ac.jp

※休校日や夏季・冬季休暇中は問合せに返信できかねます。ご了承ください。

文化服装学院では、未来のファッション業界を担う人材を育成する教員を募集しています。授業や学校生活をはじめ、学生を全面的にバックアップするクラス担任制が特徴で、学生と共に歩み、喜び、成長できる職場です。

※応募資格に該当しない方は担当までお問い合わせください。

※応募書類提出は郵送必着

※配属先については本学院にて決定

BUNKA 古本募金



不要になった書籍・CD・DVD・ゲームソフトを指定の古本業者に送付すると、その売却代金が文化学園への寄付金となる取組みです。

2023年に、創立100周年を迎える

文化学園のさらなる教育・研究の充実のために、ぜひご協力をお願いいたします。詳細は右のQRコードから専用ホームページをご覧ください。



役員紹介



すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役

佐藤 正樹 氏



すみれ会名誉会長
文化服装学院 学院長

相原 幸子 氏



すみれ会副会長
株式会社オールファッションアート
研究所 代表取締役

松本 ルキ 氏



すみれ会副会長
株式会社LEWS纏(リユーステン)
代表取締役

堀畑 裕之 氏



すみれ会副会長
元文化服装学院教授
元学院長補佐

工藤 勝江 氏



すみれ会副会長
文化服装学院 副学院長

野中 慶子 氏



スーパーバイザー
株式会社サーヴォ

花里 裕 氏

SUMIRE KAI 2021 | NO.61

第61号(2021年号) 2021年10月1日発行

発行人=佐藤正樹

編集者=すみれ会広報活動専門委員会

発行所=文化服装学院すみれ会

〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073

Art Direction & Design: 中井 拓(QUEEL DESIGN)

アパレルマーチャンダイジング科卒業

Ip取材・文: 吉田淳矢(Exrite)

服飾研究科卒業



SUMIRE KAI